

第391回  
日本泌尿器科学会新潟地方会  
《プログラム》

日時：令和元年9月14日（土）午後14時30分  
会場：パストラル長岡 5F 末広の間  
長岡市今朝日2丁目7番25号  
TEL:0258-35-1305

次回 第392回新潟地方会予告

日時：令和元年12月14日（土）午後3時  
会場：未定  
演題申込期限：令和元年11月22日（金）

- ※ すべてPCのみの発表とさせていただきます。
- ※ 口演時間は、7分、討論3分（時間厳守）

日本泌尿器科学会会員証を必ずご持参下さい。

951-8510 新潟市中央区旭町通1-757  
新潟大学医学部泌尿器科学教室内  
日本泌尿器科学会新潟地方会  
TEL：025（227）2289／FAX：025（227）0784  
会長 富田 善彦

## 1. 発熱性尿路感染症を契機に発見された膀胱ヘルニアの 1 例

立川総合病院 泌尿器科<sup>1)</sup>、外科<sup>2)</sup>小林琢也<sup>1)</sup> 安藤嵩<sup>1)</sup> 諏訪通博<sup>1)</sup> 蛭川浩史<sup>2)</sup> 上原徹<sup>1)</sup>

症例は 64 歳男性。腹痛・排尿困難・発熱のため当院救急外来を受診した。検尿・血液検査・CT で右鼠径部への膀胱ヘルニアと腎盂腎炎と診断され、当科入院となった。尿道カテーテル留置・抗菌薬点滴により速やかに解熱し、血液検査所見も改善した。当院外科で鼠径ヘルニア手術に準じた膀胱ヘルニア根治術を行い、術後に尿道カテーテルを抜去した。自排尿は良好であった。膀胱ヘルニアについて若干の文献的考察を交え報告する。

## 2. 精巣セルトリ細胞腫の 1 例

長岡赤十字病院 泌尿器科

磯貝 真理恵、晝間 楓、鈴木 一也、米山 健志

症例は 42 歳男性。左精巣に 20 mm 大の無痛性硬結を主訴に当院受診した。造影 CT で転移所見は認めなかった。腫瘍マーカー (AFP、HCG、LDH) はいずれも正常範囲内であった。高位精巣摘除術を施行し、病理でセルトリ細胞腫と診断された。精巣セルトリ細胞腫は精巣腫瘍の約 1% とされ、本邦では今症例を含め、100 例の報告がある。精巣セルトリ細胞腫の 1 例を経験したので、若干の文献的考察と共に報告する。

## 3. 母のアンドロゲン産生副腎腫瘍により女兒外性器の男性化を生じた 1 例

新潟大学大学院 腎泌尿器病態学分野

渡邊和博、小原健司、星野さや香、星井達彦、黒木大生、富田善彦

症例は 4 か月女児。ambiguous genitalia にて当科紹介初診。泌尿生殖洞と陰核肥大を認め、左右の大陰唇は接合して陰嚢様となっていた。MRI では両側鼠径部に性腺と思われる腫瘍があり、子宮と膣を認めた。G-band 分染法では 46XX、正常核型であった。生後 7 か月に当院小児外科にて腹腔鏡検査と性腺滑脱ヘルニアに対する根治術が施行された。肉眼所見では両側ともに卵巣組織であった。左性腺生検結果は正常卵巣であり精巣成分は認めなかった。児の出生 16 ヶ月後に、母がアンドロゲン産生右副腎腫瘍にて摘出術を受けた。生後 32 か月、女兒外陰形成術を施行した。

#### 4、 高齢、CKD5 症例における血尿コントロール目的の

##### 右腎尿管全摘を施行した一例

新潟大学腎泌尿器病態学分野

乾幸平、白野侑子、池田正博、安楽力、田崎正行、齋藤和英、富田善彦

慢性腎不全患者における腎摘出術は術後透析リスクが伴うため、手術適応は個々の症例に応じた慎重な検討が求められる。今回、我々は高齢、CKD5 症例に対して血尿コントロール目的に緊急右腎尿管全摘を施行したので、若干の文献的考察を加え報告する。症例は 86 歳男性。20xx 年 8 月に肉眼的血尿精査 CT にて右腎盂腫瘍を指摘された。尿細胞診 classV であり悪性が強く疑われたが、CKD5 のため術後透析のリスクを考慮して厳重経過観察の方針となった。その後腫瘍は緩徐に増大し、20xx+4 年 4 月頃より膀胱タンポナーデを頻回に繰り返すようになった。経尿道的止血術施行したが、その後も血尿コントロールつかず、同年 8 月には連日の輸血を要し、意識消失発作もあり緊急入院した。本人、家族へ透析導入を含めた十分なインフォームドコンセントを行った上、開腹下右腎尿管全摘術を施行した。術後経過は良好であり、血尿は消失した。腎機能は予想に反して改善し透析導入することなく、術後 19 日目に退院した。

#### 5、 進行腎細胞癌に対するイピリムマブ、ニボルマブ併用療法に伴い、

##### 腫瘍崩壊症候群を呈した 1 例

新潟大学大学院 腎泌尿器病態学・分子腫瘍学

結城恵里、山名一寿、風間明、石崎文雄、笠原隆、富田善彦

新規がん免疫療法薬を併用するニボルマブとイピリムマブの併用療法が、進行性腎細胞癌に対する一次治療として 2018 年 8 月に日本でも承認され、2019 年にアップデートされた腎癌診療ガイドラインにて中・高リスク群に対して推奨されている。術後の局所再発が急速に増大した高リスク症例に対してこの併用療法を施行したところ、初回投与数時間後より急変、集中治療室に搬送し加療を行った。無尿となり腫瘍崩壊症候群(TLS)として CHDF を導入した。抗腫瘍効果が高い治療ほど TLS のリスクが高いことを考慮すべきである。

## 6. 当院におけるニボルマブ、イピリムマブ併用療法の経験

長岡中央総合病院 泌尿器科

信下智広、中山亮、高橋英佑、照沼正博

2019年7月の時点で、ニボルマブ、イピリムマブ併用療法を施行した患者は3名であった。3名の内訳は、IMDC 予後因子で Poor リスク群が1名、Intermedite リスクが2名であった。治療成績は2名がPDであり、1名がNCであった。NCであった1名については、現在も治療継続中である。PDの2名については、1名は間質性肺炎で中止となり、副作用の治療中。もう1名は胸水の悪化あり、中止。その後、パソパニブにて経過良好である。

[ 休 憩 15 : 30 ~ 15 : 50 ]

泌尿器科専門医共通講習会（医療安全） 15 : 50 ~ 16 : 50

座長 富田 善彦

演者 新潟大学医歯学総合病院 医療安全管理部 教授

鳥谷部 真一 先生

演題 医療事故調査制度の現在

専門医共通講習（医療安全）1単位が認められます。単位を取得したい場合の入場は、開始後20分までとし、途中退場は認められません。

地方会終了後、17 : 00 より主催セミナーが予定されています。

# 第391回日本泌尿器科学会新潟地方会 サテライトセミナー

日 時：令和元年9月14日（土）17:00～18:00

場 所：パストラル長岡 5階 『末広の間』  
住所：長岡市今朝白2丁目7番25号  
TEL：0258-35-1305

## 【特別講演】

座長 新潟大学大学院医歯学総合研究科  
腎泌尿器科病態学・分子腫瘍学分野 教授 富田 善彦 先生

## 『 転移性前立腺癌の薬物治療 』

演者 近畿大学医学部  
泌尿器科学教室 主任教授 植村 天受 先生

---

講演会終了後に情報交換会をご用意しております。

共催 日本泌尿器科学会新潟地方会

武田薬品工業株式会社